

タイ・モン族 (HMONG)・モン語

吉井 千周

1. モンの概要

モン (Hmong) は、中国南部 (貴州省・雲南省等)、ベトナム、ラオス、タイなどの山岳地域に居住する山岳少数民族である。中国南部からベトナム・ラオスに定着し、タイには 19 世紀末には南下してきたと考えられており、モンのタイへの移動時期は 1840–1870 年と想定されている [Bhruksasri 1989]¹。

モンはさらに複数のサブグループに分かれており、タイおよびラオスに居住しているグループは、主として青モン (英語表記では Blue Hmong または Green Hmong)、白モン (英語表記では White Hmong) である。両グループの間には言語の違いが若干存在するが、意思疎通に支障はない。現在タイ国内には 12 万 6,300 人、ラオス国内には約 60 万人が居住している²。

ベトナム戦争期 (1955–1975) ラオス居住のモンはラオス中部のロンチェン (Long Tieng) を中心にアメリカ CIA と共謀してベトナムへの攻撃に加わった。そのため、アメリカがベトナムから撤退した 1975 年以降、多くのモンがラオスの再教育キャンプを避け、難民としてタイを経由しアメリカ、フランス、オーストラリアなどに移住した。その数は約 15 万人に上る。アメリカに移住したモンは、現在 36 万人規模のコミュニティにまで増加し、ミネソタ州、カリフォルニア州を中心にアジア人最大のコミュニティを構築するに至っている³。

2. モン語の特徴と表記

モンの使用するモン語は、シナ・チベット語族ミャオ・ヤオ語群に属する。元来モン語は文字を持たなかったが、現在は RPA (Roman Popular Alphabet) 表記および Pahawh Hmong 表記による記述が可能である。

RPA 表記は 1952 年にラオスのルアンプラバンにて、バーネイ (Barney, Linwood)、カトリック神父のパートレイ (Bertrais, Yves)、スマーレイ (Smalley, Willia) の 3 人によって開発された。A-Z のラテン・アルファベット 27 文字を用いる表記法である。RPA 表記は、英文タイプライターをそのまま用いることで表記が可能で、特別な活字を必要としなかった。そのため、モンは独自の文字を持つ他の少数民族と異なり 1960 年代より多くの書籍が英文タイプライターの流用による RPA 表記によって出版できるようになった。

図 1 は 1979 年にバンコクで出版されたモン語–フランス語の辞書「Hmong-Francais Dictionary」である。この辞書は RPA 表記で公刊された書物としては最も古いものの一冊であり、アルファベットのみで製版されている。RPA 表記はモン語文化圏をインターネット登場以前に世界規模で構築することに貢献し、以後の各国のモンコミュニティにおいて共同での書籍の企画・出版の礎となった。

モン語のもう一つの表記 Pahawh Hmong は 1959 年に Shong Lue Yang によって開発され、書き文字としてモン族の間にも普及した。現在は民間団体による普及活動が行われているが、活字化の遅れ、RPA 表記が印刷に使用されていること、またすでに RPA 表記を学んだ海外のモンが使うメリットが少ないことから RPA 方式ほど利用されていないのが現状である。図 2 は、Pahawh Hmong 表記の学習書で、RPA 表記との対応表となっている。

1 Bhruksasri, Wanat (1989), "Government Policy: Highland Ethnic Minorities," in Mckinnon, John and Bernard Vienne, eds., *Hill Tribes Today*, White Lotus.

2 タイのモン人口データは Prasit Leepreecha (2015) *Cross-border trade and the Hmong identity*, Princess Maha Chakri Sirindhorn Anthropology Centre. ラオスのモンの人口データは Lao Statistic Bureau (2016) *Results of Population and Housing Census 2015*. を参照。

3 アメリカのモン人口データは、Hmong Study Journal (<https://www.hmongstudiesjournal.org/hmong-census-data.html>) の 2021 年データを参照。

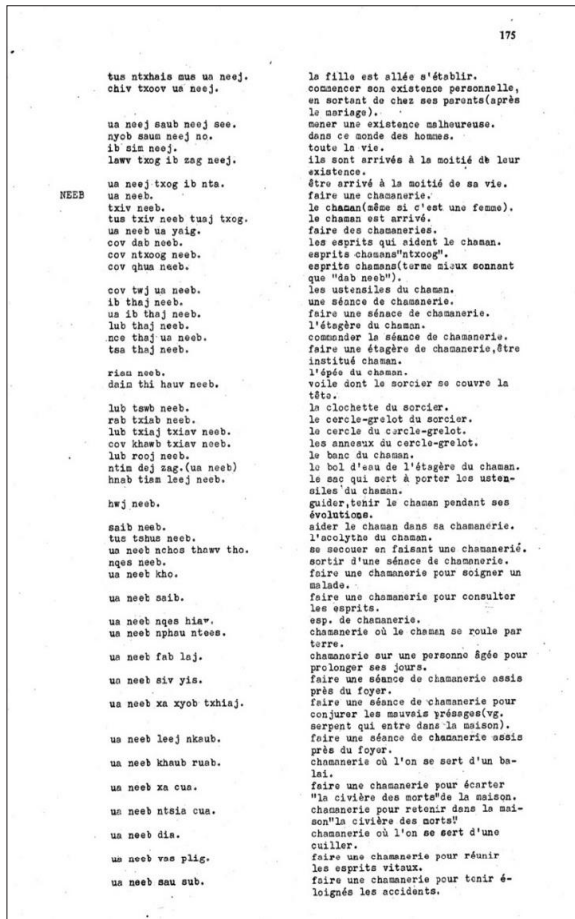


図 1

書名：Dictionnaire Hmong-Français
著者：R.P. Yves Bertrais
出版社：Assumption Press
発行地：タイ、バンコク
発行年：1979 年
サイズ・ページ数：A5 版・582 ページ
使用言語：RPA モン語、フランス語

NEEB (ネンと発音) に関する記述。モンのシャーマン ua neeb (ウア・ネン) の説明が書かれている。表紙は表装されているものの、書籍タイトル等の情報は書籍の背の部分に書かれているものしかない。

3. モン語の印刷物流通

モンの印刷流通を考える上で大きな貢献を果たしたのは、RPA 表記の生みの親であるバートレイが所属するアサンプション修道会によって設立された出版社 The Assumption Printing Press である。前述のモン語-フランス語辞書もこの出版社から出版されている。

図 3 は 1985 年から 1989 年に公開された Hmong Cultural Patrimony シリーズの一冊である。本書の書き手は、タイを経由してフランス領ギアナに入植したモンの人々である。彼らがどのようにしてギアナにて生活を送るようになったかその経緯が描かれている。

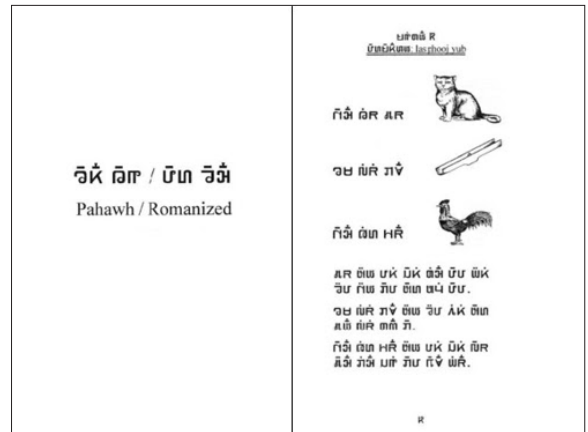


図 2

書名：Pahawh / Romanized
発行者：Hmong National Organization
発行地：タイ、バンコク
発行年：1998 年
使用言語：Pahawh Hmong、RPA モン語
サイズ・ページ数：A5 版・20 ページ

図 4 はモンの民話ダ・ネン (DAB NEEB) をまとめたもので、1986 年に印刷されている。これらの書籍もやはりアサンプション修道会印刷所で印刷されているが、取扱者 (distributer) として、フランス、タイ、アメリカといった各国のモンコミュニティの名前が挙がっている。

図 3 及び図 4 は英語フォントなどから判断すると DTP (Desk Top Publishing) で版下作成されたものと考えられる。家庭用コンピュータが世界中で普及した 1990 年代においても RPA 表記であればタイ語やラオス語のように 2 バイト文字のインストールキットを必要とせずに標準の PC セットで印刷が可能

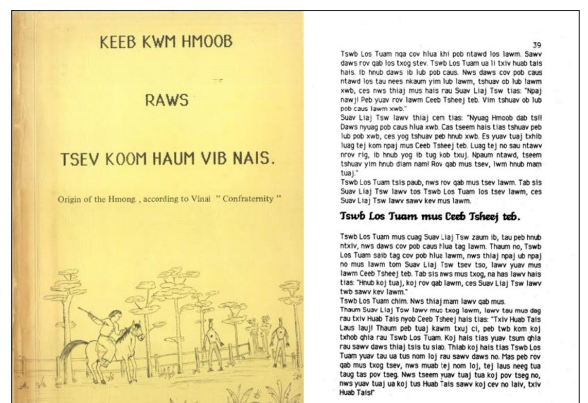
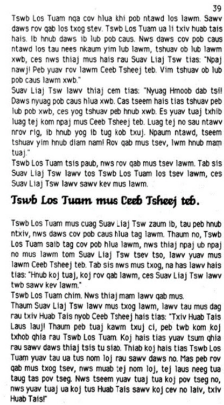


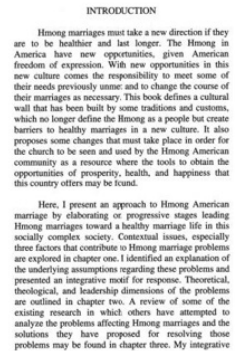
図 3

書名：Keeb kwem Hmoob raws Tsev koom haum vib nais. (Origin of the Hmong, according to Vinai "Confraternity")
発行者：Assumption Press
著者：Hmong Community Association in French Guiana
出版社：Assumption Press
発行地：タイ、バンコク
発行年：1985 年
使用言語：RPA モン語
サイズ・ページ数：B6 版相当・171 ページ



書名: Dab Neeg, Phau Ib (Folktale Vo.1)
著者: Association Communauté Hmong
出版社: Assumption Press
発行地: タイ、バンコク
発行年: 1987 年
使用言語: RPA モン語
サイズ・ページ数: B6 版相当・202 ページ

タイ国内に向けたモン語表記の印刷物については、残念ながら 1980-1990 までのモンは貧困層も多く、タイの中でタイモンだけを対象にした刊行物というのはコスト的にも難しかったと考える。だが、モンの場合には上述したとおりインターネット普及前から、世界的なコミュニティの中で情報を交換する仕組みができあがっていて、それはインターネットが



書名：Hmong Marriage In America, The Paradigm
Shift for a Healthy Generation
著者：Dr. Naw-Karl Mua
出版社：Prachoomthong
発行地：タイ、バンコク
発行年：2002 年
使用言語：英語ページ
サイズ・ページ数：B6 版相当・108 ページ

4. コミュニティペーパーからインターネットへ

印刷メディアを離れたモンの各情報誌は2015年頃にはインターネットに移動している。HMONG DAILY News (<https://hmongdailynews.com/>)、Hmong Today (<https://www.facebook.com/hmongtodaymn>)といったアメリカ発信のニュースサイトは、タイ、ラオスの情報も多数掲載されており世界中でアクセスされている。2022年

34



図 6

書名：18XEEM (issue 03)
出版社：18XEEM
発行地：アメリカ、ミネアポリス
発行年：2008 年
使用言語：英語、RPA モン語
サイズ・ページ数：A4 版相当・16 ページ

現在では有料媒体の HMONG TIMES (<https://hmongtimes.com/>) をのぞき多くの媒体が印刷を止め、Facebook 等の SNS を含むインターネット上で情報交換を行うようになっている。

先に述べたとおりアルファベット 27 文字の RPA 表記されたモン語は、英語等との親和性が高い。アメリカで発展したインターネットの技術はアルファベット表記がベースになっているため、モン語との親和性が高くインターネット黎明期より各地の蒙の情報交換がインターネット上で行われていた。

そもそもインターネットが家庭への普及が始まった 1995 年以降、モン族は積極的にインターネットを利用している。最も古いインターネットサービスの一つであるネットニュース (netnews) サービス上⁵では、特に最も古いグループの一つである蒙の文化に関するネットニュース soc.culture.hmong グループが 1996 年 10 月 19 日にスタートしていることが現在でも確認できる⁶。1996 年当時は一般的なメーラー (例えば Outlook Express など) に netnews を読む機能が付加されており、蒙の利用頻度も高かった。そしてメールアドレスも若年層

を中心に取得しているものが多かった。筆者が初めて蒙の集落を訪れたのは 1998 年のことであったが、この時期にはインターネットを使用させるネットカフェがタイ国内にできており、当時主流だった Yahoo メールを用いて海外の蒙とやりとりをする村人の姿が各地に見られた [吉井 2014]⁷。当時のタイのネット状況を考えるとこれは特筆すべき現象であったと考える。

現在では特に Facebook で多くの蒙のグループが作られている。中には「Hmong in Japan」のように日本在住の蒙、そして当方のような日本人の蒙研究者も含めたコミュニティを形成している。

こうした蒙のインターネット上でのコミュニティ形成を支えたのは、在米蒙の第 2 世代以降の大学卒業生たちである。彼らが積極的に蒙語のパソコンでの使用構築に貢献していることも特筆すべきこととして指摘しておきたい。例えば 2022 年現在、Google 翻訳の翻訳可能言語の一つとして RPA 表記の蒙語が選択できるようになっており、蒙語のコミュニティの拡大に大きく貢献している。また Pahawh Hmong 表記についても 2014 年になり Unicode の Version 7.0 に取り入れられ、PC およびインターネット上で使用できるようになっている⁸。更に蒙の民間団体 Pahawh Platform (<http://pahawh.org/>) は、Pahawh Hmong 表記と RPA 表記のコンバータを提供しており、RPA 表記から Pahawh Hmong 表記への変更は今では簡単に行える。ただし、第三世代、第四世代となった在米蒙は蒙語を話せない層も登場しており、今後蒙語話者がどれだけ世界に残るか先行きは暗い。

5. モンの動画メディア

インターネットメディアを介して蒙のコミュニティは広がったが、その際にもう一つ見逃せないメディアがある。それは映画・動画メディアである。アメリカに移住した蒙コミュニティでは、蒙語を利用した映画・ドラマ・翻訳物が多く作成され、それがタイ、ラオスの蒙コミュニティに輸入され利用できるようになっていた。Baird は、蒙

5 ネットニュース (netnews) は、インターネット上で稼働するネットワーク・ニュース・サーバ (NNTP サーバ) 上で提供されるサービスの一つである。1980 年に運用が開始され、ISP 利用料以外は原則的に無料であることから広く普及した。TCP/IP 上の通信プロトコルは、NNTP (Network News Transfer Protocol) を利用し、かつては Outlook Express などの電子メールクライアントソフトにニュース・リッパ機能が搭載されており、メーラーで読み書きができた。現在は HTTP を利用した Web ブラウザの普及により使用者は減少しているものの、Google の News Group 機能を用いて現在も使用することができる。

6 現在は Google の News Group 機能を用い Web ブラウザ上で soc.culture.hmong の過去ログを読むことができる。なお現在は宗教広告、スパム広告の類いで埋め尽くされており、建設的な情報交換がされているとはいえない。<https://groups.google.com/g/soc.culture.hmong>

7 吉井千周 (2014)「蒙族コミュニティにおける情報メディアの利用」『都城工業高等専門学校研究報告』都城工業高等専門学校、第 48 号、pp.113-12。

8 現在 Unicode 体系は、2022 年に Version 15.0 まで拡張されており、Pahawh Hmong には 16B00-16B8F の文字コードが割り振られている。詳細は The Unicode Consortium 内の以下のページを参照。<https://www.unicode.org/charts/PDF/U16B00.pdf>

の映画の担い手は 1.5 世代と呼ばれるアメリカモンによって担われ、1977 年撮影の Seua Phu Khao (Mountain Tiger) 以降、多くのモン語による映画・動画が撮影され世界中のモンコミュニティに共有されていると指摘している⁹。撮影された動画は伝統的な民話 (DAB NEEB) を題材にした作品、現代の若者の苦悩を表した作品、コメディにカラオケ DVD と幅広い。これらの蒙の映画・動画の撮影地として利用されるタイのペッチャブン (Phetchabun) 県に Khek Noi 村は、ハリウッドになぞらえて Hmollywood と呼ばれている。

筆者が 1999 年末に蒙の村落に入ったとき、村にはビデオ CD (VCD) が普及していた。VCD はコンパクトディスクに動画や音声などを記録する動画記録方式で、1993 年に登場した。当時日本及び西洋諸国では DVD が普及していたところであったが、安価な VCD プレイヤーは広くタイ国内に普及しており、電化が進んだ蒙の村々でもテレビにつなげて視聴されていた。しかも VCD ソフトのショップが村内にあり、モン語の映画ソフトが違法コピーされて販売されていた。現在では Youtube などを介して、蒙の動画が多く配信されており、多くの RPA 表記のテロップが加えられた動画を確認することができる。

こうした蒙のムービースターは世界のモンコミュニティにおいても人気者となり、彼らを集めたコミュニティペーパーも作成され、世界各地のモンコミュニティに配布されていた。図 7 の Hmong Star Magazine は 2005 年頃までは発行していたとみられる。

現在では人気蒙の Youtuber によるオリジナル動画の配信も人気であり、10 万人の以上のフォロワーを持つ Youtuber も多い。

おわりに

これまで見てきたとおり、蒙の中では、他の少数民族と異なり、インターネット (1995 年以前はパソコン通信であった) でのやりとりが、活字メディアの発展と並行的に進んだといえよう。その象徴的な出来事が 2021 年に起こった。東京オリンピック 2020 において、ミネソタ州に住み、ラオスから移



図 7

書名: Hmong Star Magazine
出版社: Huaj Vam Promotion
発行地: アメリカ、ミネアポリス
発行年: 2002 年
使用言語: RPA モン語
サイズ・ページ数: A4 版相当・16 ページ

住した蒙の第 2 世代にあたる Sunisa Lee 選手が、女子体操個人総合競技でアメリカ代表として金メダルを獲得した。彼女はアジア系アメリカ人初の個人金メダリストというだけでなく、蒙初めての金メダリストとなった。このニュースはアメリカはもちろん、ラオス、タイを含む世界中のモンコミュニティで共有され、メダル獲得の瞬間、各 SNS に世界各地の蒙が彼女の偉業を賞賛する書き込みが溢れた。そのコメントの数々は今でもネット上で見ることができる。

タイ、ラオスの蒙は交通の不便な山間部に居住していたこと、国民登録証の発行が行われなかったこと、経済状態が悪く多くの人々がタイの公教育を受けられないものが多く、タイ語やラオス語の識字率は低かった。しかしアメリカ、フランスに渡った蒙達は移住先の貧しい生活環境から、RPA 表記を用いて世界規模で蒙の文化を再構築した。アルファベット 27 文字で蒙語表記が可能であったことは、少数民族の蒙の文化圏を活字からインターネットへと世界規模に構築する上で多大な貢献があったといえよう。

9 Ian G. Baird (2019) Hmollywood Movies, *Journal of Social Issues in Southeast Asia*, Vol. 34, No. 2, 366-396.